

## ブタペスト ヨーロッパとハンガリーの美術 400年

日本・ハンガリー外交関係 150周年記念

国立新美術館（六本木） 2019. 12. 04～2010. 03. 16



ハンガリー最大の美術館「ブタペスト国立西洋美術館」とハンガリー「ナショナル・ギャラリー」のコレクションの所蔵作品がまとまって来日して展示されている。本展では、ルネサンスから20世紀初頭まで、約400年にわたるヨーロッパとハンガリーの絵画、素描、彫刻等の名品「130点」が一覧に会し、「クラーナハ」「ティツィアーノ」「エル・グレコ」「ルノアール」「モネ」などの巨匠たちの作品に加えて、日本では目にする機会の非常に少ない19～20世紀ハンガリーの作家たちの名作の出品もある。

シニエイ・メルシェ・パール 《紫のドレスの婦人》1874年 油彩/カンヴァス  
<主な展示作品>

クロード・モネ 《トゥルーヴィルの防波堤 干潮》1870年 油彩/カンヴァス



印象派の描き方を模索し始めた頃の様式をよく伝える重要な作品で、霧に覆われた空と灰色の海面の境界をぼかして、ほぼ一体化して描くことにより、どんよりした状況の印象を見事に表現している。

また、明るいピンク色を一艘のヨットの帆だけに効果的に用いて画面に精彩を与えている。

エル・グレコ 《聖小ヤコブ》 1600年頃 油彩/カンヴァス



巨匠は、神秘的な宗教画や肖像画で名声を博したが、本作は尖った耳や窪んだ目元など、顔立ちの細部が見事に描写されているために、画家の自画像とみなされたこともあった。しかし、現在はキリストの十二使徒を描いた12点組の連作における習作として描かれたものと考えられている。水色と灰色が入り混じる幻想的な背景や絵の内側から輝きを放つような衣服は大胆で生き生きとしているのが特徴とされている。

<他の主な展示作品>

クラーナハ（父）《不釣り合いなカップル 老人と若い女》1522年 油彩/ブナ板

ティツィアーノ 《聖母子と聖パウロ》1540年頃 油彩/カンヴァス

ムンカーチ・ミハーイ 《フランツ・リストの肖像》1886年 油彩/カンヴァス